

会 議 録

会議の名称	西東京市総合計画策定審議会第9回会議
開催日時	平成14年9月26日(木) 18時00分から19時50分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎3階庁議室
出席者	倉持委員、竹内委員、堀越委員、小林委員、武田委員、山本委員、磯村委員、板垣委員、畑委員(川村委員、永田委員、荒川委員欠席) (事務局)池澤主幹、桜井主査、安藤主任 (事務局支援)(株)インテージ
議 題	1. 総合計画策定審議会部会からの報告について 2. 今後の総合計画策定審議会のスケジュールについて 3. 西東京市基本構想案の第一次素案について 4. 企業・団体等ヒアリングについて 5. その他
会議資料	(1)西東京市総合計画策定審議会部会報告書 (2)西東京市総合計画策定事務想定スケジュール (3)西東京市基本構想案の第一次素案 (3)-1 基本構想案に盛り込んだ視点・ポイント (4)企業・団体等のヒアリング実施要領(案) (5)西東京市データブック(第一次) (6)「高齢者保健福祉計画」・「介護保険事業計画(第2期)」中間まとめの概要版
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録

発言者名	発言内容
倉持会長	総合計画策定審議会第9回会議を開会させていただきます。
倉持会長	<p>(総合計画策定審議会部会からの報告について)</p> <p>4月11日に審議会から部会へ基本構想案、基本計画案についての基本事項について調査・検討をしていただくように依頼したところであるが、8月22日までに10回の部会を開催していただくとともに、市民ワークショップ、子どもワークショップなど、より多くの市民からご意見を聴く場を設け、精力的に活動していただいた。堀越部会長、竹内副部会長、そのほかの委員の皆さんにはたいへんお世話になり、ありがとうございました。</p> <p>本日は、堀越部会長から、部会の報告をいただけるということなので、よろしく願いいたします。</p>
堀越部会長	<p>まず、部会の皆さんに感謝と御礼を申し上げる。4月から始まり8月に終わるまで、ハードスケジュールの中で、10回の部会と子どもワークショップ、市民ワークショップを開催した。準備会に参加していただいた委員の方、本当にありがとうございました。皆様方の中にはご家族の介護の中、あるいはご母堂さまのご臨終の時にも準備会に駆けつけていただいて、本当にありがとうございました。この席を借りて御礼申し上げます。</p> <p>皆さん方と一緒に乗り越えたいところだが、本日は、倉持会長に報告書を、竹内副部会長と、お渡ししたいと思います。</p>
倉持会長	ただいま部会長から報告書をいただいた。今後の審議会での検討過程で活かしていきたい。この内容について、なにかご発言ありますか。
A委員	感想文のところで訂正がある。後でもいい。
倉持会長	そうしてください。
堀越部会長	今日のどこかで会議録の確認をしたい。
倉持会長	今どうぞ。部会に切り替えて、部会長が会議録の確認をしたいそうです。
堀越部会長	お手元の第10回の会議録の確認をさせていただく。なにかありますか。
桜井主査	事前に皆さんにはメールまたはFAXで会議録の内容について訂正等の有無を確認させていただき、修正部分については承認いただいている。
堀越部会長	皆様に受理していただいたということで、この会議録を事務局に渡す。
倉持会長	審議会に戻る。次第の3番、今後のスケジュールについて事務局より説明をいただく。
池澤主幹	<p>私から今後のスケジュールについて説明する。(資料2)これから9月以降の審議会でのどのようなスケジュールで審議していくのか説明する。</p> <p>事務内容としては、総合計画策定審議会の1番、2番目が庁内体制、3番目が市民参加、4番目が基礎調査とある。本日説明するのは、総合計画策定審議会、部会の流れについてである。8月まではすでに終了しているので説明を省略する。</p>

	<p>今後のスケジュールは、今日この後、基本構想案の第一次素案を説明する。今日報告書を受けて基本計画の素案づくりに入る予定であったが、8月の部会終了からの1ヵ月間で報告書をまとめると同時に、その中のご意見等を踏まえながら、第一次素案ということで基本構想案をまとめた。第9回の審議会の中では第一次素案の内容を説明する。</p> <p>11月末に第10回の審議会を予定しており、重点プロジェクト案をご提案させていただきたい。12月以降2月までの審議会では、まちづくりの方向性の6つの柱の2テーマを1回の審議会ごとに提案し検討する。3月末には基本構想案、基本計画案の中間まとめまでを終了していきたい。11月までの2ヵ月間、第一次素案の骨子部分の了承後、重点プロジェクト案と基本計画の作成に入っていく。</p> <p>このような審議会のスケジュールでいきたいと考えているが、今後の曜日と時間を確認したい。できれば毎月、第4木曜日の午後6時から開催したい。その点も合わせて確認をしていただきたい。以上です。</p>
倉持会長	<p>全体の流れ、その他で質問・意見がありますか。</p>
B委員	<p>基本計画を策定していく中で、行政との連携、組織的に活動している市民の考えとのすりあわせをどのように進めていくのか。</p>
池澤主幹	<p>西東京市が誕生して、総合計画だけでなく、個計画を含めて20本くらいの計画が策定に向けて立ち上がっている。市内においては、総合計画が最上位計画であり、各計画をこれと整合するため、市内体制としてプロジェクト・チームを立ち上げている。総合計画の中では部会ということで基本構想案の素材がでてきた。この間プロジェクト・チームはお休みした。審議会終了後、毎回市内プロジェクト・チームを招集し、調整会議を持っていく予定である。2回目の市内プロジェクト・チームは、10月4日に予定している。12月の審議会後も、毎回審議会が終わった後に開催して調整を図っていく考えである。</p> <p>企業・団体等との連携、NPO・市民団体等との連携については、11月上旬に企業・団体等のヒアリングを予定している。この中で、行政と市民団体との協働、企業との連携等のテーマについてヒアリングをし、その結果を踏まえる中で、基本構想案、基本計画案に盛り込むものを検討していきたい。</p> <p>市民への広報については、平成15年4月に基本構想案、基本計画案の素案を中間まとめとして公表し、市民意見提出手続制度（パブリック・コメント）として、最終案に向けて市民の意見を収集していきたい。この準備を平成15年1月から進めていきたい。以上が市内の計画との調整、企業・団体等のヒアリング、パブリックコメントについての今後のスケジュールである。</p>
B委員	<p>たいへんよくわかりました。</p>
倉持会長	<p>それでは定例化についてご意見を伺いたい。事務局から、毎月第4木曜日の午後6時からという提案があったが、いかがか。私が心配しているのは、6時からだと議論の時間が足りないかなと思うが臨機応変に対応することにする。原則として決めておくということではよいか。</p>
全員	<p>了解。</p>

倉持会長

本日の主題である「西東京市基本構想案の第一次素案」についてに移る。会議の閉会 8 時をメドに進めたいのでご協力いただきたい。

池澤主幹

基本構想案の第一次素案についてご説明する。

本日用意したものは、資料 3「西東京市基本構想案第一次素案」、この素案が出てきた背景として資料 3 の 1「基本構想案に盛り込んだ視点・ポイント」のところにまとめている。今日はこれを読み上げることは省略して、ポイントの部分を説明する。

説明に入る前に、背景として、合併前に実施した市民意向調査の中で第 3 位までの内容についてできるだけ反映するという視点から作成した。市が今後進むべき方向性、重点項目については昨年行った市民意識調査結果を参考にした。同時に行った職員意識調査で、市民と職員の意識のギャップを見た。市民も職員も共通している視点については、構想案の中に意見を取り込む形で作成している。

また、部会で検討された内容、7 月に開催した子どもワークショップから出た貴重な意見、8 月 4 日の市民ワークショップとワークショップを踏まえた部会での検討なども参考にしている。

今後、審議会の中で議論していただきながら第二次素案、第三次素案というように、形作っていきたい。

留意した点は、市民の方々によりわかりやすいように言葉づかいにも配慮した。たとえば、基本理念という表現を、「私たちの望み」というように置き換えている。市民の方から見てわかりやすい計画づくりに配慮した素案になっている。

西東京市は新たに誕生したまちで、今までの歴史、文化・伝統を継承しながらも、どのように市民の方々、企業や団体、大学等、行政がそれぞれの役割を担いながら力を出し合い、新たなものを作り出していくのか、積極的な姿勢でまちづくりを進めていくのかを考えた。

次に内容の説明に入る。資料 3 の 1 の全体構成について見ていく。

基本理念を「私たちの望み」、将来都市像を「理想のまち」と表現した。これを実現するためにまちづくりの方向ということで 6 つの柱立てをしている。私たちが望む理想の生活を実現するために、将来都市像、理想のまちを設定し、理想のまちを実現するために、まちづくりの方向性を整理したものである。新市建設計画では、将来都市像が行政分野の縦割りになっていたが、今回は市民の目線で横断的にくくっている。新市建設計画では、将来像が 6 つの柱（福祉・環境・若者・安全快適・産業・市民参加）でつくっていたが、横断的に整理し、今回はそれを改編した。（豊かな華やぐまち、ほっとやすらぐまち、人・もの・ことをつくるまち、みんなで支え合うまち）

矢印では上からの流れになっているが、構成の中では、基本理念、将来像があって、まちづくりの方向性があるという上からの矢印を考えていく過程では、部会での検討結果など、下からの積み上げで行った。部会やワークショップで、貴重なヒントが出てきた中、それを組み合わせながら 6 つの柱立て、4 つの将来像、最後に何を理念として持っていくのかという流れである。

それでは、「私たちの望み」、基本理念について説明する。

一人ひとりが輝くということを発展させると、西東京に住んでまちを楽しむ姿というような考えから、「西東京に暮らしまちを楽しむ」理念が出てきた。

コミュニティの活性化のキーワードということで、部会等で、コミュニティやふれあいがキーワードとして出ており、それを参考にした。

また、子どもワークショップの報告書のまとめの33ページに出ている21名のこどもたちの10年後の西東京市へという意見の中について述べる。ワークショップ終了後のアンケートで10年後の西東京市へという意見が後書きにふさわしいと考え、こどもたちのそのままの意見を載せた。ここでは、優しい、楽しい、ふれあい、明るいといった表現が多く出された。

子どもが望んでいるまちの姿は、優しい人たちがいて、皆さんが助け合っていて、楽しく明るいまちを望んでいるのではないかとということで、理念に結びつけることを検討した。部会、ワークショップの各場面で出た人と人、ふれあい、コミュニケーションの雰囲気から、西東京のあたりに「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」という理念に結びついた。まちを楽しむ姿は一人ひとりが輝く姿のさらに発展させたものであると同時に、まちを楽しむ余裕がでると、人に対する思いやり、優しさも出てくる。楽しさは個々人の主観が多く含まれるが、個々人が楽しめる背景、根底には、人と人とのやさしさやふれあいがあってはじめて、個々人の楽しみも出てくるのではないかとということから理念に結びついていった。

次に資料3の1の2枚目を開いてください。理想のまち、将来像についてであるが、「豊かな華やぐまち」の背景としては、新市建設計画の基本理念にある「21世紀を拓き緑と活気にあふれ」という部分、利便性、快適性、2回目の部会で出た魅力あるまち、産業の活性化、交通の利便性（道路整備、交通ネットワークの充実）などのキーワード。モラルの向上、市民意識の向上、このようなことから潜在力、ポテンシャルのあるまちが理想として出てきた。何かを生み出すパワーのあるまちが理想のまちとして出てくるのではないか。この中には、一人一人の市民や団体・企業等の生き方、活動が尊重されるということも入っている。後ほど6本の柱の中で出てくる人権や男女平等の視点もここに入ってきて、一人一人が尊重される中で豊かな華やぐまちが生み出されていくという内容である。

「ほっとやすらぐまち」。これが出てきた背景には新市建設計画の基本理念に表現されている、「ゆとり」という表現である。「21世紀の東京都に誕生する新市は優しさのあふれたゆとりあるまちを目指します」という理念を参考にしている。合併前の市民意向調査の特に力を入れてほしい施策の上位3つの中の第2位として、安心して歩ける道路の整備が挙げられている。西東京にある地域資源、生かすべき資源として存在する自然、緑ということからもほっとやすらぐまちが生み出された。

市民意識調査の87ページで西東京の取り組むべき優先度、住み良さの第1位が歩道の整備である。職員意識調査の中でも道路の整備として市民意識調査よりも多く出ていた。ワークショップで出た子どもが遊ぶ場なども参考にしている。

「ひと・もの・ことをつくるまち」。新市建設計画の基本理念に表現されている市民の自己実現のことである。市民が知識を得たり、楽しく学んだりできる場、それを発揮できる場、活動する場、そのような市民の自己実現が必要ではないか。市民意識調査の生涯学習、スポーツ振興の取り組みや情報化への期待の上位回答も、学ぶ場がほしいや生涯学習ができる情報提供という内容の意見が多かった。

市民意識調査のこれからのまちづくり、市の基本方向の第3位として子どもたちを育てる環境と教育環境のよいまちが挙げられている。市民意識調査の総体の意見では第3位であったが、年齢別で年齢層が20代、30代の方や同居家族別で小さい子どもと同居している方、居住年数が、今年入った方、5年未満の方では第1位となっているのでこの視点を入れる必要があると考え

た。西東京にある活かすべき資源として存在するものをできるだけ活かしていこうということ。歴史の分野では、下野谷遺跡。文化面では、こもれびホールを拠点とした文化の発信。自然の面では東大農場や保全緑地。部会の中の意見では、「まちを愛する」や「郷土愛を育む」というキーワードが多く出ている。こういった視点も「ひと、もの、こと」をつくるまちに入っている。

「みんなで支えあうまち」。新市建設計画の基本理念に表現されているやさしさ。やさしさのあふれたゆとりあるまちという表現からきている。市民意向調査の第1位が高齢者福祉、3位が環境対策の推進ということでこれも入れている。市民意識調査の第1位、福祉が充実した安心して暮らせるまちも大切にしていきたい。子どもワークショップの後書きで子どもたちが望むまちの姿、やさしさ、助け合いという意見も大切にしていきたい。市民ワークショップで出た、見守り、環境循環、環境保全、コミュニティの活性化というキーワードも参考にしている。社会的な面では福祉や地域での支えあい。経済的な面では地産地消の仕組み。地元で採れた物を地元で消費できるしくみが必要である。環境的な面ではリサイクル、グリーン購入、環境保全の仕組み。これを単に行政や市民だけではなく、部会で出てきた公・共・私（市民と行政、地域の中でのコミュニティ）が支え合いながらしくみをつくっていく視点も必要ではないかということから都市像を設定した。以上が基本理念と将来像である。

6つの柱のポイントを紹介する。基本理念と将来像を実現するために、資料3の7ページ以降、6つの分野による取り組み方針が載っている。新市建設計画の縦割りの6つの柱を置き換えたイメージになっている。新市建設計画の都市像は、もうひとつ上のレベルのものであるが、将来都市像が縦割りになっており何か抜け落ちている感じがする。

「創造性の育つまちづくり」を第一番目に置いている。新市計画では、若者を育てるまちということと比較すると、今までは大人が子どもを育てる視点で計画を組んでいたが、大人から子どもまでが育つくみをまちづくりの中に取り入れていく必要があるのではないかということからこの柱立てをしている。一人一人の個性が尊重され、豊かな文化に触れ合えるまちづくりを進めますということで、この視点は下の体系にも載っているように、一人一人が輝くためにということで、人権的な部分、男女平等の部分の柱立てになっている。子どもがのびやかに育つために、子どもの人権尊重、教育環境の問題、子育て支援の問題も含めている。この中には文化の視点も入れていて、豊かな文化が息づくためにということで、生涯学習から図書館、スポーツ・レクリエーション、文化財なども含まれている。このような3つの視点から柱立ての整理をした。

次に8ページの「笑顔で暮らすまちづくり」ということで、新市建設計画では「地域の中で支えあう福祉のまち」の分野に当たる。「だれもが安心して健康に暮らし自立した生活を営めるまちづくりを進めます」ということで、安心して暮らすためにという福祉の分野からの視点、元気に暮らすためにということで、健康の視点からの施策体系という分け方をしている。福祉の分野では高齢者福祉について十分述べられているが、児童福祉の視点が部会の中でも何度か出てきたが、今回つくった中では多少薄い部分がある。

児童福祉を「笑顔で暮らすまちづくり」なのか、「創造性の育つまちづくり」なのか、子育ての中なのか。分け方が単純に分けられるのか、もうひとつ体系化したほうがいいのか、詰めきれずに課題として残っている。これについてご意見を伺いたい。

次に9ページの「環境にやさしいまちづくり」ということで、新市建設計画では「環境にやさしく美しいまち」という柱である。「居住環境の心地よさを作り出す、緑を守り、持続可能な地球にやさしいまちづくりを進めます」ということで、ひとつは緑の保全を視点に置いている。下の体系図でも豊かな緑を保つためにということ、今ある緑をいかに保ち、増やすかという視点から施策を取り組んでいきたい。もうひとつは、循環型社会を確立するためにということ、ゴミの問題、環境の問題といった視点でとらえている。

特にこの中で議論したのは、環境の問題は西東京市単独で解決できる問題ではないという議論をしている。

文章の中でも上から4行目で、「ひとつの市だけで解決できる問題ではありませんが、逆に一人ひとりの行動を変えていくことの積み重ねが大切であり、地域を越えた広い視野での取組みが必要です」ということで、これからの環境行政は、西東京市だけではなく横の連携や幅広い視点での取組みが必要である。その反面市民一人ひとりが日常生活の中で環境問題とどう取り組んでいくのかという視点も大切であるということでもまとめている。最後の文章の下から3行目であるが、学校教育と連携した環境問題への取組みで、小さい頃からの意識を施策の中で取り組んでいきたいということでもまとめあげた。

次は10ページの「活力と魅力のあるまちづくり」としているが、事務局では、ここに次の11ページの「安全で快適に暮らせるまちづくり」を先に持っていきたいと考えている。5番目に「活力と魅力のあるまちづくり」最後に「協働で拓くまちづくり」という順番になり、これについても意見を伺いたい。

「活力と魅力のあるまちづくり」、これは新市建設計画では「様々な産業が育つまちづくり」という視点である。市内における労働環境の創出と商業集積地等魅力のまちづくりを進めますということである。活力ある産業のために、農産商工の振興策を体系化している。産学公の協働推進も視点として取り入れている。もうひとつは西東京市に人が集まるまちになるためにどのようにしていくかという視点から施策体系を取り上げている。下にある体系図に、人が集まるまちにすると立てているが、内容は不十分である。これについては、11月に予定している企業・市民団体、NPO等とのヒアリングの中で、ヒントになるものを掴んで肉付けをしていきたいと考えている。

次の11ページの「安全で快適に暮らせるまちづくり」であるが、「市内の日常生活における利便性の向上を目指し、安全で快適な空間を育てる、歩いて暮らせるまちづくりを進めます」ということである。快適な日常生活のためにということ、都市基盤整備、安全に暮らせるためにという災害や防災に備えたまちづくりをつくっていくという視点で体系をとらえている。

最後になるが、12ページの「協働で拓くまちづくり」であるが、「市民、行政、企業など、地域に活動する市民みんなが地域づくりに参加し、ともに積極的に行動できるまちづくりを進めます」ということである。これは、新市建設計画の市民が参加する活力あるまちづくりに対応すると考えている。まちを支える市民のために必要なこと、持続発展するまちであるために必要な取組みを視点としてまとめていった。

第一次素案についての説明を終わります。ご質問等いただく中で、改めて説明したい。以上です。

倉持会長	<p>あくまでたたき台として出てきている。今日は、文言より、全体の枠組み・構成、分野の分け方等について意見を伺いたい。文章その他については、皆さんのご意見により、今後修正していきたい。スケジュールの説明であったように、11月以降にテーマを区切って深めていくことはできる。</p> <p>今から1時間弱の間にご自由にご意見をいただきたい。</p>
C 委員	<p>理想のまちの「豊かな華やぐまち」等それぞれの文言がどこから出てきたのか質問しようと思っていたが、説明されたので了解した。</p> <p>武蔵野、三鷹、調布市の基本構想をインターネットで見えて来た。3市とも目標の計画人口を想定している。調布は横ばいだが、三鷹は減らしている。西東京についてはどう考えたらいいのかが。</p> <p>構成については、特色があって素晴らしいと思うが、他の市をみると少し違う。基本理念は、三鷹や調布は3つの基本理念である。三鷹市は平和の希求と人権の尊重と自治の実現、調布市は個の尊重と良好なコミュニティの形成と自然との共生である。西東京市は、これで仮に決まると、「やさしさとふれあいの西東京に暮らし、まちを楽しむ」ということで次元が違う。また、基本目標・将来像が別に表記されている。三鷹市は「人間の明日へのまち」、調布市の場合は、「みんながつくり笑顔輝くまち調布」が基本目標である。一緒にする必要はないが、それらの違いの考え方を知りたい。</p>
池澤主幹	<p>将来人口については、人口推計調査によれば、10年後は196,000人である。現在181,000人なので、1万人強が増加するとしている。昨年の基本方針の答申でも、これからつくる総合計画の中で政策によって人口を見直す必要があるという意見があった。今後、政策を議論していく中で、必要があれば推計を増減するが、当面は昨年の推計を前提としていく。</p> <p>総合計画書については、各団体のものを見ているが、各自治体ともまちまちである。理念については、ひとつの理念に目標を定めて行っていくのが一般的であると考えている。また、市民がみてわかりやすいものとして表現を工夫、配慮している。それらの点で、三鷹や調布と違う内容になっている。</p>
C 委員	<p>人口については、^{すうせい}趨勢を伸ばしていくと考えるのか。</p>
池澤主幹	<p>特に、減らすという政策判断はない。今後も微増の傾向にある、それに市として対応していくかたちで考えている。</p>
B 委員	<p>人口規模というより、西東京市が暮らしやすく、住みやすくということを考えていくと、人口密度も制御していくことが、都市間競争の面でも望ましい。西東京を含めて市街地を、国勢調査などで人口集中地区という概念でとらえている。市街地でどのくらいの人口密度を日本人が住みやすいと考えているかを見てみると、1960年時点でk㎡当たり11,000人ぐらいであった。平成12年速報値では、6,000人近くになっている。日本人は市街地でどのくらいの人が集まっているのが住みやすいのか。</p> <p>住む人が多ければ建物も多くなる。マンション建設などを見ても、周りのオープンスペースを強調している。それを数字的にいうと、西東京市が住んでよかった、住みたくなるまちになるためには、人口密度をコントロールしていく方向を検討したほうがいいのではないか。</p> <p>平成12年における西東京市の人口密度は、11,412人である。日本の国民がこのような高い数字を望んでいないと思う。</p>
池澤主幹	<p>人口密度を抑える施策を打ち出すためには、例えば、市の取組み姿勢として開発指導をしていくということか。</p>

B 委員	<p>そうである。そして、できるだけオープンスペースを確保していく。</p>
倉持会長	<p>それはひとつのお考えとして承っておく。他に意見はあるか。</p>
A 委員	<p>希望が湧いてくるようなやさしいものができてよかった。21 世紀なので、日本全国や世界に発信できるような力強いものがあるとよい。入れるものの具体案はないが。</p>
池澤主幹	<p>活力と魅力あるまちづくりの視点か、それとも別の視点か。</p>
A 委員	<p>西東京のまちのイメージはよくなるが、これまで、平和都市宣言とか、非核なんとかがあった。自分たちのまちがよくなるだけじゃなくて、世界に投げかける、オープンなものがほしい。</p>
倉持会長	<p>基本構想の前書きのようなものはつくるのか。21 世紀の第 1 号の合併都市として、世界に発信できるものがよい。 そうであれば、いまの A 委員の趣旨も生かせる。</p>
池澤主幹	<p>そういう説明も入るし、より具体的な言葉も入ってくる。これから文章が出る上で言葉の調整がでる。</p>
B 委員	<p>西東京市民であるとともに、地球市民である。地球市民としては、国際的な交流や国際的な活動が必要である。最近、旧満州、ハルビンに行ってきたが、これからは自治体同士の交流に希望を託していると言っていた。自治体同士は武器を持っていない。そう考えると、自治体同士の交流は大事だと思う。平和を維持する活力につながるのではないか。地球市民、国際交流、国際活動という視点が入れると、西東京市がそういう視野で 21 世紀の世界を考えているということが伝わると思う。</p>
倉持会長	<p>構成について、一定の結論を出したい。</p>
D 委員	<p>これまでの部会では、市民参加、コミュニティをすべての施策の底辺に流れたものと考えていた。今日の案は、やさしい言葉でわかりやすくてよいが、6 つの分野にとらわれているような印象を持った。 国際交流という点では、「創造性の育つまちづくり」の中に国際化の推進が含まれているので、ここに入ればよいと思う。教育・学習の分野の他に、市民の文化や交流などの分野があると思う。6 つの分野の分け方がこれでいいのか、もう少し違った分け方があるのではないか。皆さんの意見を伺いたい。</p>
倉持会長	<p>同感である。「環境にやさしいまちづくり」の豊かな緑を保つためと、安全で快適な日常生活のためには、かなりだぶった要素が入っており、本来整理したほうがいい。ダブっていたりたくさん書いているのもいいが、雑然とした感じがする。豊かな緑を保つということは安全で快適なまちを追求していることであるが、環境という視点でとらえてそちらにいつている。緑の保全、農地の保全は公園緑地の整備などつながっている。ある施策がいろいろなところにつながっている。6 分野は徹底的に議論して組み立て直したかった。 今の D 委員のご意見はいかがですか。</p>
池澤主幹	<p>これをつくるに当たり、市民参加やコミュニティという視点をどうするかという議論を行った。その中で新市建設計画との対比で説明したが、新市建</p>

	<p>設計画が素案の体系と考え方が違うと思っている。基本理念があって新市の将来像がある。素案でいうと基本理念と都市像に当たる。実際、今回示したのは、将来像の中、都市像は4分野に分けている。新市建設計画の6分野を4分野に横断的に整理をしたと考えていただければいい。その中でもみんな支え合うまちというあたりに市民参加のしくみという視点を取り入れて、これを実現するためにはまちづくりの方向性として6つの分野につくった。今回のまちづくりの方向の6つの分野と新市建設計画の6つの柱が重なってしまうことがあると思う。</p>
倉持会長	<p>環境と安全・快適の部分は、もう少し整理統合してもよかった。新市将来構想のとき、かなりこだわったが、少数意見だった。他の意見をどうぞ。</p>
E 委員	<p>「活力と魅力のあるまちづくり」を見ると、その後の説明が「労働者保護」や「消費者保護」の推進と書いてあり、視点が違うのではないか。人が集まるまちになるために、右のほうの新産業の育成、先ほど話が出た、たとえば人が集まるのは市内だけの人なのか、外から人を集めるのか。何を狙っているのか捉え方がはっきりしていない。項目と説明が一致していない。活力のある産業のためにというなら、農業振興とか商工業振興、産学協同からとらえるべきである。「消費者保護」や「労働者保護」は、別の観点からとらえているべきである。もう少し詰めていく必要がある。</p>
池澤主幹	<p>これについては、11月初旬に予定している企業・団体等のヒアリングを踏まえて、内容を詰めていきたい。庁内の議論でも、「労働者保護」の点について内容整理の必要があるという意見も出ていた。もう一度整理させていただければと考えている。</p>
倉持会長	<p>最近、「労働者保護」という言葉は使わない。</p>
池澤主幹	<p>他の自治体の計画で、ハローワークのような職業・就業相談や労働相談などとして項目立てしているところがある。</p>
倉持会長	<p>「雇用の開拓」という表現にした方がよいのではないか。他にご意見は。できれば、こういう流れで構成していくということについて確認をしたい。6本柱をそのまま是認するのではなく、こういう流れでやっていくという趣旨でいく。</p>
C 委員	<p>人口政策をどこかに入れてほしい。私の住んでいたところは、雑木林だったのが6～7階建てマンションが林立して、全く環境が変わった。人口を自然増に任せるかということについては、できれば、人口抑制の方向で入れてほしい。</p>
E 委員	<p>人口抑制は問題がある。居住の自由がある。むしろ、環境をよくしていくということで解決していくべきである。</p>
F 委員	<p>人口を抑制したほうがいいのか、行政として人口を抑制できるのか、どのようにするのか。日本の人口が2025年まで増加していくがそれを防ぐには、田中知事が言っていた、たとえば、軽井沢には2階建てをつくらないようにする等具体的に出れば効果はある。できなければどうにかたちで行政が人口抑制にタッチできるのか。</p>

池澤主幹	<p>具体的に人口を増やさないということは盛り込めないと思うが、まちづくりの視点から開発指導の問題や部会の中で出ていたまちづくり条例の問題を取りこむことによって、ある程度住環境のいいまちづくりはできると思う。住環境をいかに良くしていくかという視点から盛り込める。</p>
大森主任研究員	<p>高さ制限をすることが緑を守ることにならない。人口抑制には繋がらない。生産緑地の保全是相続税等税金対策のためにあり、多岐に渡る問題で、開発の指導要綱や条例をつくるだけの問題ではない。難しい高度な話である。ここではそういう話を場面場面でやっていけばよい。</p>
A 委員	<p>私はこれでよいと思う。</p>
倉持会長	<p>まちづくりの方向については異論が出ている。</p>
F 委員	<p>「ひと・もの・ことをつくるまち」の表現にやや違和感がある。</p>
倉持会長	<p>この考え方でご異議がなければ、この構成の流れを確認したことで、次の議題に移る。</p>
倉持会長	<p>(企業・団体等のヒアリングについて) 企業・団体ヒアリングについて、事務局から説明をいただく。</p>
池澤主幹	<p>企業・団体・大学についても、一市民として行政との関わりについて模索していくことで、予定では11月上旬にヒアリングを実施していきたい。 資料4の企業・団体等のヒアリング実施要領案に沿って説明させていただく。 目的としては、代表者からまちづくりへの協働意識、企業の可能性、事業者相互の連携をグループヒアリングという形態で聴くことで、総合計画策定に当たっての検討素材とする。 ねらいとして、協働のまちづくりを進めるための視点、産業育成について、事業者の連携についての3つある。行政だけでは地域の課題解決ができない中でいかに協働のまちづくりを進めていくか。産業育成については、大手の企業の工場撤退後に高層マンションが立っている、企業が西東京市から離れている状況の中で産業育成をどのようにしていくのか。商店街と大店舗との連携、地域内での事業者相互の連携をいかに進めていくか。こういった視点からヒアリングを行いたい。 対象者は、例示の中から10団体をリストアップして実施したい。 2の(1)と書いているのは、上の2番のねらいの(1)あたりを中心にヒアリングをしていく団体が2の(1)の から までである。2の(2)の(3)の団体についてはねらいの2番目の(2)と(3)を中心にヒアリングをしていく団体が から のインテージさんまでという内容である。 日時は、対企業なので1カ月前には内容等について打診をしていきたい。 日程は、11月6日(水)および7日(木)の2日間とあらかじめ決めている。 主催は、西東京市としたい。 ヒアリングのすすめ方については、計画策定の支援をしていただいているインテージさんにヒアリングの進行、インタビューをしていただく。以上がヒアリング実施内容の説明である。</p>
会長	<p>市主催だが、審議会の皆さんは、任意参加していただいて結構である。このことに関する質問、ご意見はあるか。</p>

C 委員	インタビューの具体的な時間は決まっているのか。
池澤主幹	今のところ時間は決めていない。午前または午後の 2 時間程度で、昼間になる。企業、代表の方に昼間来ていただいて開催するかたちになる。
C 委員	具体的な時間が決まったら、早めに知らせてほしい。
G 委員	以下の団体から 5 団体というのは、全部に声を掛けるがその中から絞ってインタビューするのか。福祉関係、まちづくり関係 NPO とは、具体的にはどういうところか知りたい。
池澤主幹	2 の (1) の団体の選定にあたっては、企業、大学なら 2 つのうちひとつ、市民団体は福祉関係の NPO、まちづくりの NPO、子育て関連団体から 2 つ程度など、バランス良く構成したい。打診については、所管課を通じて行う予定である。社会福祉協議会は、総合計画策定の中で重要な位置を占めるので、必ず入れていきたい。
倉持会長	他になければ、これでよいか。 その他について、事務局よりお願いします。
池澤主幹	4 月からデータブックの集計を行っていたが、1 / 3 くらいのデータ集計ができたので、本日配付した。11 月の審議会でもできたものからお渡ししたい。最終的には、データブックとしてお渡ししたい。 また、高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画の中間まとめということで概要版を配付した。本編はできあがり次第、お渡ししたい。計画策定の参考にしていただければと考えている。 次に荒川副会長さんご欠席ということで連絡をいただけていない。万一、会長、荒川副会長さんが欠席の場合、審議がストップするので、副会長をもうひとり選任して、今後の審議会の運営にご協力いただきたい。
倉持会長	データブックと福祉計画の概要版については、持ち帰って、ゆっくり読んでいただきたい。 副会長については、ぜひ選任をいただきたい。自薦、他薦いずれでも。
E 委員	会長に一任する。
倉持会長	それでは指名させていただく。できれば竹内委員にお願いしたい。
一同	拍手。
竹内委員	了承します。
G 委員	今回は、今日の意見を聞いて新たな案が事務局から出されるのか。
倉持会長	ステップバイステップで基本構想案、重点プロジェクトが出てくる。
池澤主幹	本日いただいた意見をもとにして、第二次素案として事前にお送りし、ご審議いただく。また、11 月に重点プロジェクト案をご提案する。
F 委員	重点プロジェクトとは、どのようなものか。

池澤主幹	出てくる体系をひとつの重点プロジェクトに束ねることにより、将来像や理念により早く近づくためのプロジェクトと考えてほしい。
G委員	第二次素案とともに重点プロジェクト案も事前にいただけるのか。
池澤主幹	事前に配付する。
H委員	企業・大学・団体ヒアリングの知らせは、メールでもらえるのか。
池澤主幹	メールまたはファックスでお知らせする。
倉持会長	他に特になければ、これで閉会する。 次回は 11 月 28 日（木）午後 6 時より開催する。